QSK 福精連

公益社団法人福岡県精神保健福祉会連合会
〒812-0046
福岡県福岡市博多区吉塚本町１３－５０
電話092-292-0560　ＦＡＸ092-292-0561
e-mail:fksr1974@fukuseiren.com
http://www.fukuseiren.com/

Ｎｏ．１２７　令和８年１０月１日

第8回福精連大会

８月28日（金）、北九州市の「ウェルとばた 多目的ホール」で、第８回福精連大会を開催しました。本大会には、県内の家族会会員をはじめ、施設利用者・支援者、福祉を学ぶ学生や関係機関など多くの方々（１３５名）にご参加いただきました。 開会にあたり、主催者である福精連楢橋会長からの挨拶に続き、来賓として福岡県保健医療介護部 健康増進課 精神保健係長 綾部様および北九州市保障害福祉部長 荒田様から心強いお言葉をいただきました。行政と民間が一体となって精神保健福祉を推進していく地域との連携が強調されました。





第１部 ：精神障害者ケアの「脱家族化」が拓く未来

第１部では、佛教大学社会福祉学部の塩満卓教授をお招きし、「精神障害者ケアの脱家族化～本人と親双方の自己実現を志向する実践～」と題した講演が行われました。

◎家族依存型制度の限界と「８０５０問題」

日本の精神障害者福祉や医療は長年「家族ケア」を前提として設計されており、統合失調症当事者の約８割が親と同居している現状があります。親の高齢化と本人の高年齢化に伴う「８０５０問題」は、家庭ケアの限界を示しており、親の死亡や共倒れによって「施設・病院への長期入所・入院」に突入してしまう構造が指摘されました。

◎親の「向老期」の保障とケアの人権アプローチ

長年ケアを担う親（特に母親）は、子ども独立後の人生の段階である「向老期」を奪われがち。講演では「ケアされる権利」だけでなく「家族がケアすることを強制されない権利」などの人権モデルが提示され、家族を介護者役割から解放することの重要性が説かれました。

◎親なき後ではなく「親の存命中の自立」へ

家事や身の回りの世話（手段的ケア）をホームヘルプやグループホーム等の「社会的ケア」へ移行・委ねることで、当事者は必要な支援を受けながら自立し、親と子は互いを尊重し合う「対等な親子関係」へと再構築できることが示されました。

第２部 ：事例発表

①「家族会と私」発表者：富崎 博起氏（すずめのお宿家族会）

高校３年生で統合失調症を発症した次女との15年間にわたる歩みについて発表いただきました。

◎孤立からの脱出とピアサポート：病気や偏見への恐れから家族だけで抱え込んでいた時期を経て、家族会「すずめのお宿」と出会い、同じ苦悩を分かち合える仲間に思いを受け止められたことで救われた体験が語られました。

◎「苦は宝なり」と支援の連鎖：娘が就労継続支援Ｂ型事業所で成長していく姿や、自らの苦しい体験が次の悩める家族を救う「宝」になるという「家族学習会」での学びが紹介され、学びを受けた人が新たな支援者へと育っていく支援の連鎖の重要性が強調されました。



②「事例から考える『にも包括』」発表者：坂栗 さつき氏（はまゆうサポートセンター センター長）

高齢の障害当事者（自閉スペクトラム症・慢性疾患）への緊急支援事例を通して、地域包括ケアシステムの重要性が報告されました。

◎地域版「にも包括」と縦割りを超えた連携：ＳＯＳを自ら出すことが難しい当事者に対し、医療・福祉・行政・保健が横断的に連携し、生活保護申請やグループホーム移行、金銭管理などを一体的に支えた実践を報告されました。

◎医療費助成の拡大要望：福岡県における精神障害者保健福祉手帳所持者への医療費助成が１級に限定されている現状に触れ、２級も含めた対象拡大の必要性が強く訴えられました。

次ページにつづく

この機関紙【福精連】は、共同募金の配分金によって作成されたものです。

家族のための相談電話

【相談時間】13時～16時

・月曜日　０９０-１３６６-７４９８
・火曜日　０８０-３９８６-１９８０
・水曜日　０８０-１７２９-１９５０
・木曜日　０８０-１７２９-１９５０
・金曜日　０８０-１７２９-１９５５
・土・日曜日・祝日 9時～16時
　０８０-１７２９-１９５５

一人で抱えずお電話ください

賛助会員加入のお願い

令和８年度の賛助会員の募集を行います。皆様のご協力よろしくお願い致します。

年会費：個人　3,000円
　　団体　10,000円

郵便局振込先
加入名：（公社）福精連
口座番号：01760-7-84332

※福精連への賛助会費・寄付金は確定申告の際の寄付金控除の対象になります。

月間「みんなねっと誌」を購読しませんか？

賛助会費（購読料を含む）
個人　年間３、６００円
※団体は一部還元があるのでお問い合わせを

郵便振込先
加入者名　みんなねっと
口座番号　００１３０-０-３３８３１７



電話番号 ０３-６９０７-９２１１

行事案内

【第２回　理事会】【拡大会議】
10月28日（水）13～14時半／15～16時半
福岡県中小企業振興センター３０２Ｂ

【こころの健康づくり大会】
11月10日（火）13時～16時 ウェル戸畑
記念講演「ネット・ゲーム・ＳＮＳ、ギャンブル依存症の理解と対応」
ミニコンサート 水上裕子（Ｍｉｎａ）

【みんなねっと全国大会】長崎
11月20-21日（金・土）
ベネックス長崎ブリッジホール
開催形式：ハイブリット開催

【福岡県精神保健福祉センターと共催研修会】
12月１日（金）13時半～16時
福岡県精神保健センター研修会
「精神障がい者の家族と支援者が共に支え合い、より良い関係性を築くための オープンダイアローグ ～対話がもたらす回復の力～」
講師：本山 智敬 氏（福岡大学教授）

令和８年度賛助会員の皆様

〈団体会員〉（敬称略・順不同）

・島手そうめん販売株式会社（３口）
・医療法人冨松記念会　三池病院（２口）
・医療法人社団桜珠会　可也病院
・医療法人みらい　筑紫野病院
・（一社）福岡県障がい者スポーツ協会
・医療法人和光会　一本松すずかけ病院
・医療法人同仁会　乙金病院
・おおほり心療クリニック
・社会福祉法人ほっと福祉会
・寿防災工業株式会社
・医療法人紫陽　ここからクリニック　下記へ続く
・一般社団法人Ｑ-ＡＣＴ

〈団体会員〉（敬称略・順不同）つづき

・医療法人社団松和会　門司松ヶ枝病院家族会「みのり会」
・一般社団法人ちはやＡＣＴ
・有限会社ティ・ケイ・ディ
・医療法人緑心会　福岡保養院
・医療法人 要会 かなめクリニック
・油山病院家族会「あけぼの会」
・社会福祉法人福岡あけぼの会　しののめ
・社会福祉法人福岡あけぼの会　みぎわ工房
・社会福祉法人福岡あけぼの会　ほのぼのＨａＫａＴａ
・社会福祉法人福岡あけぼの会　ステップアップ（Ⅲ型）
・社会福祉法人福岡あけぼの会　多機能型ステップアップ　みらい
・社会福祉法人福岡あけぼの会　心の春希望
・社会福祉法人福岡あけぼの会　サンサンはかた
・社会福祉法人福岡あけぼの会　トライアングル
・社会福祉法人福岡あけぼの会　グループホームカレッタ
・社会福祉法人福岡あけぼの会　グループはーとふる
・医療法人陽山会　丸野クリニック
・福岡県精神保健福祉協会

〈個人会員〉（敬称略・順不同）

（３口）・富田 義之　・楯林 英晴
（２口）・一木 猛　・辻田 雄一
（２口）・渡辺 美穂　・伊原加津代
・古屋 岳治　・小野 雄史　・田原 恭子
・立山 利博　・廣津 輝男　・六反 敏裕
・田川 裕二　・樋口 靖則　・平川 ミドリ
・馬場 由紀子　・犬束 義光　・國房 稔代
・金子 義郎　・山本 由美　・内原 守
・戸田 俊彦　・重富 裕司　・山田 宗良
・舟越 洋　・一木 美千代　・井上 純治
・松本 國寛　・蔦 忠之　・佐藤 莞治
・下川 展弘　・下川 富子　・菅野 康子
・平山 一雄　・今村 浩司　・木原 聡
・永末 雄大　・川本 茂子　・後藤 英一郎
・早川 栄悟　・阿部 利民　・濱田 薫
・野澤 重信　・福田 清隆　・乙村 未沙貴
・楢橋 恭一　・白石 雄二　・森川 久美子
・山口 由紀子　・隅谷 和生　・野田 栄市
・原 久美　・藤尾 廣　・釜 完司郎
・國友 充康

（令和８年10月10日）



みなさまのご協力に心より感謝申し上げます。

【編集】公益社団法人　福岡県精神保健福祉会連合会　〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50　６Ｆ
【発行】QSK九州障害者定期刊行物協会　〒812-0068　福岡市東区社領１丁目12番４号
【年会費】3,０００円（購読料含む）定価100円

第8回福精連大会 感想

皆様からいただいたアンケートを一部紹介します。これまでの家族依存モデルからの脱却に光を見出した多くの声が寄せられました。

特別講演への反響

・『家族も支援の対象（クライエント）である』という視点に、長年の肩の荷が下りる思いがした
・海外のデータを見て、日本の家族がどれほど過度な負担を負わされているか客観的に理解できた
・親なき後ではなく、親がいる間の自立という考え方に、勇気をもらった

事例発表への反響

・専門職から得られる安心感と、同じ境遇の仲間から得られる安心感は別物であり、どちらも不可欠だと確信した
・『苦は宝なり』という言葉。自分の苦しみが、いつか誰かの支えになるのだと思えた
・地域での『横の連携』がいかに重要か、アウトリーチの具体的な成果から学ぶことが多かった

地域全体で支え合う！

ケアを家族だけに抱え込ませるのではなく、地域全体で支える「社会的ケア」へと転換していくこと、「親なき後ではなく、親が存命のうちに本人の自立を進める」ことの重要性が強調されました。

福精連では、今後も当事者・家族の皆さまが安心して自分らしい生活を送れる地域づくりに努めてまいります。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



「安心して病める」だいじょうぶな インクルーシブ社会を目指して



9月29日、衆議院第一議員会館にて「これからの精神保健医療福祉を考える会」主催の院内集会が開催され、会場・オンライン合わせ265名が参加しました。

集会では、当事者・家族・医療・福祉関係者が集い、提言書（第一次案）『安心して病める』だいじょうぶなインクルーシブ社会を』を軸に熱い議論が交わされました。

前半の報告では、人権・自己決定・社会参加を基本理念に、暮らしや家族支援など6つの柱が示され、従来の病院中心・隔離医療から「国民中心の地域生活支援」への根本的転換が訴えられました。

後半のシンポジウムでは、当事者によるピアサポートの意義、ケア負担を「家族扶養」から「社会扶養」へ変える必要性、本人の権利を尊重する医療・福祉の実践が語られました。国連勧告や構造改革の動きを受け止め、当事者の尊厳を守る改革を全国の対話と運動で進めていく行動提起で結ばれました。

精神医療が大きな歴史的転換期を迎える中、病気や障がいの有無にかかわらず、誰もが地域で自分らしく暮らせる社会の実現に向け、みんなの声を結集し改革を進めていく強い決意が感じられました。

Q-ACTが15周年 県内5カ所に広がる

家族の声をきっかけに立ち上げ、県内5カ所に広がったQ-ACT。15周年を迎え、記念イベントが10月10日、九州産業大学で開かれました。

午前中は、「IPS就労支援とACT連携実践」「地域移行支援（退院支援）」、「精神障がい者への包括的セクシャリティ支援」など4会場で分科会が行われました。

午後からの15周年のセレモニーでは、ACTを応援する団体個人への表彰があり、福精連・楢橋会長に感謝状が手渡されました。表彰状には、「今日のQ-ACTがあるのは、家族会の皆様の深い愛と行動力、そして温かな力添えがあったからこそ・・」とありました。

記念シンポジウムでは、「これからの未来をデザインする～脱施設化と地域共生社会へ～」のテーマに沿って、弁護士、支援者、Q-ACT利用者と家族が体験、意見を発表し深め合いました。

当事者の方、ご家族の方のお話が強く印象に残りました。

福精連理事　白石　雄一





みんなねっと
熊本地震義援金 ご協力のお願い

〇義援金口座　ゆうちょ銀行
【名義】公益社団法人全国精神保健福祉会連合会
シャ）ゼ ンコクセイシンホケンフクシカイレンゴ ウカイ

（ゆうちょ銀行から振り込む場合）
【記号】10160【番号】02155921
（他行からの振り込む場合）
【店名】　〇一八（ゼロイチハチ）
【店番】018　【預金種目】普通
【口座番号】0215592



事業所紹介
地域活動支援センター かたろい（Ⅰ型） センター長 西村そのみ

地域活動支援センターかたろいは、八女市役所から徒歩3分程のところに位置し、障がいのある方が気軽に集い、安心して自分らしい時間を過ごせる地域の居場所として、令和3年4月に開所しました。

「かたろい」の名前には、八女地方の方言である「かたる～参加する」と標準語の「語る」の二つの意味が込められており　「みんなが安心して参加でき、語れる場」として、利用されるみなさんが、ほっと一息つける場所、思いやりのある場所をテーマに活動しています。

かたろいは、地域活動支援センターⅠ型として精神保健福祉士等の専門職を配置し、日常生活の不安や困りごと、悩みなどの相談を受ける支援体制を整えています。また、障がいのある方のアート作品展開催等を通じて、地域住民との交流の機会を積極的に作ったり、ピアサポーターの育成にも取り組んでいます。



八女の街並みの一角（観光名所の福島八幡宮の斜め前）にある地域活動支援センターとして、八女の地域に根ざした場所となり、さまざまな活動や社会との交流を通して、利用されるみなさんが『自分らしく』『安心して』地域で暮らしていけるようサポートをしていきます。